

基本目標

4

便利で快適な
都市づくり



基本目標 4で取り組む
内容を紹介するにゃん

第1節
主要施策

1

道路交通体系の整備

- (1) 広域交通ネットワークの整備
- (2) 生活道路網の整備

第2節
主要施策

2

公共交通の維持・充実

- (1) バス路線網等の維持再編
- (2) 公共交通不便地域の解消
- (3) 既存の公共交通の利便性の向上
- (4) 公共交通の利用促進

第3節
主要施策

3

住環境の整備・充実

- (1) 移住・定住の推進
- (2) 新玉名駅周辺の整備
- (3) 公営住宅の整備
- (4) 公園・緑地の整備
- (5) 「花の都 玉名」づくりの推進

第4節
主要施策

4

景観まちづくりの推進

- (1) 情緒的な景観をみせる場づくり
- (2) 景観まちづくりに取り組む担い手づくり
- (3) 景観に対する意識づくり

第5節
主要施策

5

水道・下水道等の整備

- (1) 水道の整備
- (2) 下水道等の整備

第6節
主要施策

6

情報・通信基盤の整備

- (1) 地域情報化の推進

第1節
主要施策

1

道路交通体系の整備

現状と課題

国道208号(旧玉名バイパス)の開通や九州新幹線の全線開業など、広域交通ネットワークの充実と市内の幹線道路との連携を進めていますが、広域交通ネットワークを更に充実したものとするため、市内の東西地域と南北地域の連携、交流のための交通体系を整備する必要があります。

生活道路については、歩行者や自転車が利用しやすい環境や利便性の向上と安全性を確保するため、道路の新設・改良、舗装や側溝改良などの整備が求められています。

道路橋等の橋梁の老朽化が進んでいます。老朽化した道路の計画的な改修とともに、道路橋は、平成26(2014)年度の法令改正によるメンテナンスサイクル(点検-診断-措置-記録)を確立し、予防保全型の管理による長寿命化を図る必要があります。



生活道路の改良工事(左:工事着工前、右:工事竣工後)

主要施策の概要

1 広域交通ネットワークの整備

- 新玉名駅周辺の利便性を高めるため、県道玉名立花線等のアクセス道路の整備を促進します。
- 広域幹線道路である国道や県道に係る事業を促進するため、積極的な要望活動を展開します。また、既存の主要幹線道路についても、交通量を考慮し、必要に応じ4車線化に向けた整備を促進します。
- 有明海沿岸道路(熊本県側)の熊本市～大牟田市間の、全線国直轄による早期整備を要望するとともに、長洲町～大牟田市間について、早期着工・早期完成を国及び県に要望します。
- 市の一体的な発展を図るため、市内の交通ネットワークを整備し、市内交通の利便性を向上するとともに、都市の骨格をなす都市計画道路*について、路線の計画的な整備・見直しに努めます。
- JR鹿児島本線玉名駅を縦貫し、県道寺田岱明線と国道208号(旧玉名バイパス)を接続する「玉名市骨格幹線道路の構想」に着手し、交通・物流拠点のアクセス向上など効果的な広域道路ネットワークを検討します。

2 生活道路網の整備 **重点施策**

- 生活道路については、歩行者や自転車が安全に利用しやすい環境を確保するため、道路、歩道、側溝など市内の交通ネットワークを担う生活道路網の計画的な整備を図ります。
- 県道寺田岱明線と国道208号(旧玉名バイパス)を接続する都市計画道路玉名駅平嶋線は、都市計画道路の見直しや県の境川改修計画と調整を図りながら検討します。
- 市内各所の道路橋の長寿命化を図るため、橋梁のメンテナンスサイクル(点検-診断-措置-記録)を確立するとともに、予防保全型の管理体制への移行により、適切かつ効果的な維持管理に努めます。

用語解説

※都市計画道路：都市の骨格を形成し、安全で安心な市民生活と機能的な都市活動を確保する、都市交通におけるもっとも基幹的な都市施設として都市計画法に基づいて都市計画決定された道路のこと。

◆都市計画道路の整備状況

	路線数(本)	計画延長(km)	整備状況(km)	整備率(%)
都市計画道路	10	46.99	33.23	70.7%

資料：都市計画現況調査(令和3(2021)年3月31日時点)

第2節
主要施策

2

公共交通の維持・充実

現状と課題

市内の公共交通は、九州新幹線新玉名駅、JR鹿児島本線3駅(大野下駅、玉名駅、肥後伊倉駅)を有する鉄道と、JR鹿児島本線玉名駅を起点とした路線バスが運行し、玉名温泉など主要な観光地、周辺市町を接続しています。また、路線バスの一部廃止に伴って、地域内の公共交通として予約制乗合タクシーが4地域(滑石・岱明地域、大浜・豊水・横島地域、天水・河内(熊本市)地域、玉陵地域)で運行することにより、市民の移動手段として機能しています。

車社会の進展と人口減少により、路線バスの利用者は減少し、運行維持のために必要な行政負担の増加が課題となっています。また、本市は超高齢社会に突入しており、日常生活を支える持続可能で多様な移動手段を確保する必要があるため、公共交通は、更なる効率化と利便性の向上を図る必要があります。

市内には、公共交通のサービス圏から外れる地域があります。鉄道、路線バスなどが利用できない公共交通不便地域は、市民の円滑な移動を制限し、生活の利便性を損なうため、地域の特性に応じた対策を講じる必要があります。



主要施策の概要

1 バス路線網等の維持再編

- 気軽に外出ができる移動手段の確保と、環境への負荷軽減などを図るため、市民のニーズに応じたバス路線網の再編を図り、効率的な地域公共交通体系の維持再編を目指します。

2 公共交通不便地域の解消

重点施策

- 市内に点在する公共交通不便地域を解消するため、それぞれの地域に予約制乗合タクシーを導入します。

3 既存の公共交通の利便性の向上

- 既存公共交通の利便性を向上させるため、市内を結ぶバス路線について、路線ごとに利用実態やニーズを把握し、JR鹿児島本線玉名駅での鉄道との乗り継ぎや市内にある高校や大学への通学に便利な運行体系の実現を目指します。
- 既存公共交通の利便性向上を図るため、JR鹿児島本線玉名駅、九州新幹線新玉名駅における、路線バスと鉄道との乗継利便性の向上を図ります。
- JR鹿児島本線玉名駅の南北を接続する幹線道路や駅周辺施設の整備を検討し、交通アクセスが良好な立地を生かした賑わいあふれる交流エリアとなるよう新たな都市機能と、交通拠点機能の実現を目指します。

4 公共交通の利用促進

- 地域公共交通の利用促進を図るため、市民自らが公共交通問題に対して、主体的に考え行動するように、市民意識の醸成を図ります。また、デジタル技術を活用し、利便性の高い公共交通を目指し、利用促進に努めます。
- 行政、公共交通事業者及び市民で組織する地域公共交通会議を中心として市民にとって利用しやすい公共交通体系の構築を目指します。



予約制乗合タクシー（いだてんタクシー：玉陵地域）



小学生向けのバス乗り方教室

第3節
主要施策

3

住環境の整備・充実

現状と課題

人口減少が進む中、都市としての活力を維持するためには、新たな人の流れを生み出す必要があります。

各種アンケート調査によると、福岡都市圏や関東、関西圏から本市への移住に関心を示している人がいる一方、関東、関西圏では本市を知らないという回答結果が多く出ています。そのため、移住・定住に関する情報を効果的に発信する必要があります。

また、九州新幹線新玉名駅へのアクセス道路の整備により、広域的な交通体系が形成されましたが、県北地域の玄関口である駅周辺に商業施設等の立地が進んでおらず、民間活力による開発を誘導し、支援する必要があります。

●新玉名駅周辺等整備基本計画 整備区域:35.6ha



新玉名駅周辺等整備基本計画整備区域

現状と課題

公営住宅は、高度経済成長期には住宅量を確保することに重点を置かれてきましたが、近年では住宅確保が必要な人に対する支援の役割のほか、人口減少・少子高齢化に伴う管理戸数の問題や、既存の民間住宅の活用等も重要な政策課題となっています。本市においても、「玉名市公営住宅等長寿命化計画」に基づき、厳しい財政状況の下、老朽化した公営住宅を効率的かつ計画的に更新し、公営住宅の長寿命化を図り、ライフサイクルコスト^{※1}の縮減に努め良好な住環境を整備する必要があります。

公園は、日々の生活に潤いをもたらし、憩いの場であるだけでなく、災害時には避難場所や避難所としての機能を果たします。「玉名市都市公園施設長寿命化計画」に基づき、市内の都市公園^{※2}の計画的な再整備を推進するとともに、市民との協働により適切な公園管理を進める必要があります。

花と緑があふれる「花の都 玉名」づくり活動が持続的に行えるよう、活動する団体や地域の人材を育成する必要があります。

用語解説

※1 ライフサイクルコスト：建設時点から次の建替えまでに要する建設費、修繕費、改修費等の合計額のこと。

※2 都市公園：都市計画区域内に地方公共団体が設置した公園、緑地や墓園及び都市計画区域外に都市計画決定し開園したものをいう。本市では、56箇所671,967㎡(最終公告2019(平成31年)3月)の都市公園がある。

主要施策の概要

1 移住・定住の推進 **重点施策**

●「住んでみたい、住み続けたい」と思う、市民のニーズに合った住環境の整備に努めます。また、将来的な移住・定住を目指した、地域との関わり方などの情報を積極的に発信し、玉東町、南関町、和水町と本市で形成する玉名圏域定住自立圏で共同して関係人口※の促進に取り組みます。

2 新玉名駅周辺の整備 **重点施策**

●九州新幹線新玉名駅周辺の整備については、民間活力による開発を促進させるため、商業施設や住宅、公共施設などが立地可能な環境を整備し、賑わいの創出を図ります。また、この地域は浸水想定区域に含まれていることを考慮し、十分な検討を行い整備します。

用語解説

※関係人口：移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域と多様に関わる人々を指す。



玉名市ふるさとファンミーティング

主要施策の概要

3 公営住宅の整備

- 住宅確保の配慮が必要な低額所得者や被災者などに対応し、公営住宅のほか民間賃貸住宅を活用した住宅セーフティネット※の推進に努め、生活の安定と福祉の増進を図ります。
- 公営住宅を安全で快適な住まいとするため、「玉名市公営住宅等長寿命化計画」に基づき、計画的な修繕、改善及び建替えについて検討します。



公営住宅の外壁改修



地域の花づくり活動

4 公園・緑地の整備

- 都市環境の向上を図るため、市民生活に安らぎや潤いをもたらす公園や緑地は、市民に憩いの場としての利用を促進します。
- 公園は、避難場所や避難所としての機能を併せ持ち、利用者の安全を確保するため、「玉名市都市公園施設長寿命化計画」に基づき、適切な再整備や管理に努めます。

5 「花の都 玉名」づくりの推進

- 花と緑があふれるまちづくりのため、各小中学校や各種団体による「花の都 玉名」づくりを推進するとともに、継承していくための地域の人材育成を支援します。

用語解説

※住宅セーフティネット：住宅確保に配慮を要する方に住宅を供給するための仕組みのこと。

◆公園・緑地の状況

	街区公園	近隣公園	地区公園	総合公園	運動公園	都市緑地	広場公園	計
箇所数	41	1	1	1	1	9	2	56
面積 (ha)	6.93	1.13	6.52	21.45	18.85	11.20	1.13	67.2

資料：都市公園一覧(平成31(2019)年3月)

第4節 主要施策

4

景観まちづくりの推進

現状と課題

本市は、地域特有の自然や歴史を背景として、先人たちの営みによって育まれた魅力的な景観資源を有しています。地域の特性を生かしたより良い景観形成のためには、市民がこれを学び、意識し、誇りを持って自ら「かたる※」仕組みづくりを行う必要があります。

また、良好な景観形成に向けて、行政、市民、事業者などが、景観形成の目標を共有し、連携を図るとともに、「玉名らしい景観」の独自性、歴史、文化等を受け継ぎ、活用していく担い手を確保する必要があります。

用語解説

※かたる：「語る」という意味と、熊本弁の仲間に「加わる」という意味の「かたる」という意味も込めている。



天水からの眺望

主要施策の概要

1 情緒的な景観をみせる場づくり

- 玉名らしい、魅力的な景観を伝えるため、景観資源が持つ特長や独自性、歴史・文化等の背景を捉えた情緒ある演出に取り組むなど、戦略的に魅せる景観づくりを推進します。また、見せたい景観を的確に見てもらうため、眺望点等の掘り起こしを行います。
- 積極的に景観誘導を行い、効果的な景観形成を図るため、「玉名市景観計画」に基づき、景観まちづくりの熟度に合わせた景観形成基準※を設定します。

2 景観まちづくりに取り組む担い手づくり

- 脈々と受け継がれてきた玉名らしい景観を後世に残し、良好な景観形成を推進するため、景観まちづくりに携わる担い手を育成し、連携を強化するとともに、市民が暮らしの中で景観づくりに取り組んでいけるよう支援します。

3 景観に対する意識づくり

- 良好な景観形成には、市民一人一人が景観に興味、関心を持ち、「景観を良くしよう」とする意識を持つことが重要です。景観づくりの意義や重要性のほか、景観資源の歴史的・文化的背景の情報を発信することで、市民が玉名の景観の価値を認識し、誇りを持つよう取組を推進します。

用語解説

※景観形成基準：良好な景観を形成するために景観計画に定められた建築物の色彩や使用する材料など、行為の制限基準のこと。



景観フォトブック



イベントでの玉名らしい景観の展示



玉名らしい景観づくり交流会

第5節
主要施策

5

水道・下水道等の整備

現状と課題

水道は、市民生活を支えるライフラインとして重要な役割を担っており、その事業運営に当たっては、安全で安心な水道水を安定して供給できる効率的な体制整備が求められています。また、更新時期を迎える水道施設については、「アセットマネジメント^{※1}計画」による更新事業を進める必要があります。

一方、下水道等は、生活環境や公衆衛生の向上に寄与するものであり、汚水処理施設の有する特性や経済性などを総合的に勘案し、地域の実情に応じた効率的かつ適正な整備を実施する必要があります。また、下水道施設の老朽化が進んでいるため、「ストックマネジメント^{※2}計画」による更新事業を進める必要があります。さらに、水環境を守るため、公共下水道や農業集落排水以外の区域における合併処理浄化槽の普及を図る必要があります。

用語解説

※1アセットマネジメント：サービスを継続していくため、必要な補修、更新といった施設管理に必要な費用とそれのための財源を算定し、長期的な視点に立って経営を行っていくこと。

※2ストックマネジメント：長期的な視点で施設全体の今後の老朽化の進展状況を考慮し、優先順位付けを行ったうえで、施設の点検・調査、修繕・改善を実施し、施設全体を対象とした施設管理を最適化すること。



取水施設(溝上水源)

主要施策の概要

1 水道の整備

- 安全で良質な水を持続的に供給するため、給水区域の拡張や老朽化した水道施設の更新を推進します。また、人材育成、技術継承、管理運営の見直しなどを行い、経営の効率化を推進します。
- 水道は、市民生活や産業活動に必要不可欠であるため、水道施設の強靱化を計画的に実施します。

2 下水道等の整備

- 公共用水域の水質保全や快適な市民生活の向上を図るため、引き続き、全体計画区域内の認可拡張を実施し、早期完了を目指すとともに、効率的かつ適正な整備を実施します。
- 下水道施設の維持、機能継続を図るため、「玉名市公共下水道ストックマネジメント計画」に基づき、下水道施設の更新を計画的に実施します。
- 九州新幹線新玉名駅周辺の汚水を適正に処理するため、「新玉名駅周辺等整備基本計画」や「玉名市都市計画マスタープラン」を踏まえ、開発状況に応じた下水道等の整備に努めます。
- 浸水被害の軽減を図るため、雨水対策については、効率的な整備手法等を検討します。
- 生活排水による公共用水域の水質汚濁を防止するため、浄化槽に関する啓発活動に努めるとともに、浄化槽の設置支援及び整備を推進します。
- 地域の実情に応じた効率的かつ適正な農業集落排水処理施設の整備を図るため、老朽化による機能低下が懸念される汚水処理場等の改修を「農業集落排水施設最適整備構想」に基づき計画的に実施し、施設の機能強化に努めます。



下水道浄化センターの見学

第6節
主要施策

6

情報・通信基盤の整備

現状と課題

市内全域に超高速ブロードバンド^{※1}網が整備され、本市の情報通信格差(デジタルデバイド)^{※2}は解消されました。

また、公共施設への公衆無線LANの整備を行うことで、災害時における避難所での活用や、観光産業、ウィズコロナ時代への対応が可能になりました。

新世代の移動体通信(5G)についても、現状は民間事業者により主要都市部のみでサービスの提供が行われていますが、産業・雇用の創出による地域活性化をはじめ、様々な地域の課題解決に向け、地方都市に対しても早期の整備が求められています。

めまぐるしく進歩するICT技術に対応するため、地域・行政の情報化に新たな情報通信格差を生じさせないように対応していく必要があります。

さらに、教育分野においてもプログラミング教育が開始されるなど、市民の情報技術の向上が図られています。こうした中、市民が行政情報などのオープンデータ^{※3}を活用し、地域課題等の解決を図るための情報の基盤整備を行う必要があります。

用語解説

- ※1 超高速ブロードバンド: 光回線やケーブルテレビ(CATV)、LTE回線などの通信サービスのこと。
- ※2 情報通信格差(デジタルデバイド): インターネットやパソコン等の情報通信技術を利用できる者と利用できない者との間に生じる格差のこと。
- ※3 オープンデータ: 機械判読に適したデータ形式で、二次利用が可能な利用ルールで公開されたデータのこと。



主要施策の概要

1 地域情報化の推進

- 公共施設利用者の利便性向上のほか、災害時の通信手段確保や観光インバウンドへの活用など、幅広い分野での活用を視野に公共施設へ公衆無線LANの整備を行い、地域の付加価値向上を図ります。
- デジタル技術を活用した、地域課題の解決や市民サービスの向上に向けた取組を推進します。
- AI(人工知能)等の新技術を活用し行政情報や統計資料などの分析を効率的に行い、市民ニーズや地域課題などを的確に捉え、施策や事業へ活用するための必要な環境の整備に努めます。
- 行政情報のオープンデータ化を進め、市民の参加と協働の取組を進め地域の活性化を推進します。



公衆無線LANが整備された施設(玉名文化センター)